

(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)小諸上田線	
事業毎の通番	5	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	梅ヶ丘(うめがおか)
事業目的	本路線は、小諸市と上田市を結ぶ幹線道路で、通勤、生活道路として利用されており、交通量は12,622台/日(H22交通センサス)である。当区間の一部は、上田市神科小の通学路になっているが、急カーブ、急勾配区間が含まれるうえ、歩道が未整備の状況であるため、地元地域から安全対策が求められている。このため、歩道を整備することにより、交通事故の防止と交通の円滑化を図るものである。				
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	第5編 施策の総合的展開 第4章 4-2 県民生活の安全確保 第5章 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり	事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	通学路合同点検(H25)				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	神科小学校 通学者他 現況自動車交通量:12,622台/日、現況自転車歩行者交通量:95台・人/12h				
着手年度	平成27年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	—	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=1,130m W=2.5m			400,000	240,000 144,000 16,000
年度事業内容(主な工種)	測量・設計 1式			0	0 0 0 0
	用地測量 1式				
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故抑制が図られる			
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制			
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量 : 12,622台/日 ○現況自転車歩行者交通量 : 95台・人/12h	評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 1つ整合(通学路緊急合同点検)	評価	C	
	効率性	○事業期間 : 5年間(H27~H31)	評価	C	
	緊急性	○近年の交通事故件数 : H23 3件、H24 6件 ○通学路対策 : 通学路合同点検実施箇所(H25追加点検) ○現況の歩道幅員 : 歩道なし	評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 周知していない ○地域の取り組み : 協力的である(神川地区自治会連合会、神川地域振興会から上田市長あて要望あり) ○地域の合意形成 : 現時点では合意形成が図られていない(不明) ○住民との協働 : 関与については不明	評価	C	
	部意見	交通量、交通事故が多く、緊急性が高いことから、安全な歩行空間を確保するため、早期の歩道整備が必要である。	行政改革課意見	上田市と小諸市を結ぶ幹線道路であり、歩道が未整備であることから、緊急性が高く、必要性も認められる。	評価結果
				○	B

位置図

状況写真

平面図

状況写真

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	梅ヶ丘から町吉田間の道路改良が進み、当区間は歩道の中抜け区間となっている。河岸段丘地形のため神川を上流へ迂回し、急カーブ、急勾配区間が含まれることもあり、歩行者の安全確保が強く求められている。また、一部区間は神科小の通学路であり、早期に安全対策が必要になっている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H24.6.11 神川地区自治会連合会、神川地域振興会から上田市長あて要望書が提出されている。
③事業説明等の経緯	特になし
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	・周辺の文化財、河岸段丘地形に配慮した構造を検討する。 ・人家へかからない歩道(道路)計画を検討する。
⑥地域活性化への影響と配慮	当事業により、通学路の安全と、一般交通の安全・円滑化が図られる。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N	36° 23' 22"
東経:E	138° 17' 35"